

富士第一小学校だより

かじま

11月号

令和4年10月25日



校訓 『強い体 強い心』
 学校教育目標 『しなやかに 挑み続ける ～支え合い 一歩踏み出す子～』
 重点目標 『あなたもわたしも 笑顔いっぱい!』

本にたくさん親しむ11月にしよう

校長 齊藤 隆裕

10月2日(日)は、富士本町商店街で軽トラ市と第2回エキキタテラスが行われ、5年生の子供たちが、総合的な学習の時間で自分たちが見学したり調べたりしたお店の宣伝や商品販売の手伝いなどのスタッフ業務を体験しました。

10月23日(日)のかじま祭りと同時間開催されたエキキタテラスにも、5年生の子供たちが、校内行事のスポーツフェスで踊ったフラッグを使った表現運動を披露し、多くの地域の方々に素晴らしい踊りを見ていただきました。また、代表者児童2名が、市長とのトークショーに参加し、駅北地区の未来の姿について語りました。5年生以外の学年の子供たちもかじま祭りに参加し、3年ぶりに開催されたお祭りを大いに楽しむことができました。

地域の行事にたくさんの子供たちが参加することで、地域の方々と触れ合う機会を持つことができ、どの会場でも笑顔が溢れていました。まだまだ新型コロナウイルス感染症は収束しませんが、コロナ禍であっても、このような地域の行事には、これからもたくさんの子供たちが積極的に参加していくように声掛けをしていきたいと思えます。

さて、あと1週間ほどで11月になります。秋も深まり、過ごしやすい時期となりました。秋といえば「読書」「食欲」「運動」などいろいろな言葉が連想されますが、その中でも学校では、特に読書に力を入れています。昨年度は、年間貸し出し数44,942冊で、1日平均295.7冊でした。コロナ禍の影響で図書室の利用に制限が掛かったこともあり、一昨年度よりは年間の貸出数は減少していますが、それでも1か月の1人当たりの貸出数は7.0冊と、富士市の目標を達成する高い数値となっていました。今年度は、9月末現在で、すでに1か月の1人当たりの貸出数が昨年度と同じになっています。

このように、本校の子供たちは、読書が習慣化してきており、図書室には、休み時間になるとたくさんの子供たちが本を借りに来ています。また、週1回朝位置付けている朝読書の時間や休み時間などのちょっとした隙間の時間には、どの学年の子供たちもじっくりと読書をしている姿が見られます。2・3年生の子供たちの中には、校長室に「100冊読み終わりました。」「300冊読んだよ。」などと報告に来てくれる子がたくさんいます。そう言いながら入ってくる子供たちは自信に満ち溢れ、とても良い表情をしています。私は、報告に来た子供たちに必ず「一番面白いと思った本(友達にも読んでもらいたい本)は何?」「それはどんなお話だった?」と尋ねます。尋ねられた子供たちは、みんな自分のお薦めの本の名前と簡単な粗筋をしっかりと答えることができます。低学年の子供でも分かりやすく話すことができ、とても感心します。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果では、1日30分以上読書をしている子の割合は36.2%と、全国平均(36%)を若干ではありますが上回っています。富士市の目標は、全国平均と同じくらいとなっているので、今後も、子供たちが本に親しめるようにしていきたいと思えます。

11月は7日(月)～30日(水)を「もみじ読書旬間」として位置付け、子供たちがたくさん本に親しめるようにします。6月に設定した「あじさい読書旬間」では、子供たちはたくさん本を読み、1人当たりの貸出数は8.9冊でした。今年度2回目の読書旬間ということもあり、さらに貸し出し数が増えることを期待しています。また、学校だけでなく、家でも家族で本に親しむ時間を設け、本を通して頭にたくさん栄養を蓄えられるようにしていったらいかがでしょうか。子供たちが、「こんな本を読んだよ。」「○○冊いったよ。」など得意気に校長室に来てくれることを楽しみにしています。

